

■吉行淳之介 小説家。“第三の新人”。闘病しながら、話題作を次々発表、座談の名手で、宮城まり子の活動も支援。

よしゆきじゅんのすけ

護憲三派圧勝1924＝ 岡山市で、小説家吉行エイスケ(栄助)の長男に生まれる。母はアグリ。

円本時代始・1926＝ 2歳：父母とともに、上京し、池尻に住む。

共産党事件・1928＝ 4歳：麹町に転居。

世界恐慌・1929＝ 5歳：母が美容院を開く。

海軍軍縮条約1930＝ 6歳：番町小学校に入学。

満州事変・1931＝ 7歳：

国際連盟脱退1933＝ 9歳：

二二六事件・1936＝12歳：卒業し、麻布中学校に入学。

日中戦争始・1937＝13歳：

大政翼賛会・1940＝16歳：腸チフスに罹り入院中、父が急逝、退院後も休学。以後、母に育てられ、

日米開戦・1941＝17歳：復学し、

・1942＝18歳：卒業。静岡高等学校文科丙類に入学するが、

創価学会検挙1943＝19歳：心臓脚気と偽って休学し、帰京。この頃から文学に関心をもち、

年金+総武装 1944＝20歳：岡山で徴兵検査受け甲種合格。復学後、応召し入営するも、直後に気管支喘息となり、戦場行きを免れて帰京するも、以後、喘息の発作に悩まされ続ける。

敗戦・1945＝21歳：卒業し、東京帝国大学文学部英文科に進んだところで、敗戦。長崎原爆で親友2人が死去。

新憲法公布・1946＝22歳：『葦』や『世代』の創刊同人となる。

新憲法施行・1947＝23歳：大学を中退し、新太陽社に入社。雑誌『モダン日本』『アンサーズ』の編集に携わる傍ら、執筆を続け、

極東裁判決・1948＝24歳：平林文枝と入籍。

独立回復・1951＝27歳：

メーゴ-事件・1952＝28歳：*敗戦後の赤線をテーマにした『原色の街』が芥川賞候補となるも、落選。左肺に空洞が見つかり、休職、

TV放送始・1953＝29歳：退社し、療養後、清瀬病院に入院。『薔薇販売人』で認められ、

自衛隊発足・1954＝30歳：*『薔薇販売人』を含む『驟雨』で芥川賞受賞。退院するも、受賞式には欠席。

55年体制始・1955＝31歳：病臥続けるなか、作家として生計立てることを決意、

なべ底不況・1957＝33歳：悪評も広まる。

イヌカトア-ン・1958＝34歳：『寝台の舟』、

美智子妃・1959＝35歳：大田区北千束に転居。『娼婦の部屋』、

安保闘争・1960＝36歳：『文学界新人賞選考委員』になる。

全国総合計画1962＝38歳：なお療養しながら、『札幌夫人』を仕上げる。『砂の上の植物群』、

この頃、女優宮城まり子と愛人関係になり、

東京リビ-ック 1964＝40歳：ともに外国旅行。以後、彼女の慈善活動などを支える。

大学紛争始・1965＝41歳：事故で2度死にかける。『不意の出来事』で新潮社文学賞。

いざなぎ景気1966＝42歳：*『星と月は天の穴』で芸術選奨文部大臣賞。

美濃部都知事1967＝43歳：心身ともに不調で、

震ヶ関ビル・1968＝44歳：入院と検査を繰り返す。上野毛に転居。日航の招待で、バンクーバー・サンフランシスコを旅行。

全共闘・1969＝45歳：

大阪万博・1970＝46歳：『暗室』で谷崎潤一郎賞。

ドルショック・1971＝47歳：再び、心身ともに不調、

日中国交回復1972＝48歳：『アレルギー症状も悪化して、鬱状態になるなか、芥川賞選考委員になる。』

石油ショック1973＝49歳：回復に向い、口述筆記。

角栄金脈辞任1974＝50歳：短期ボルドー旅行。『新設の川端康成賞選考委員。』

ケアンズ-ール事件1975＝51歳：『鞆の中身』で読売文学賞。

成田衝突・1978＝54歳：『夕暮まで』で野間文芸賞。

革新大敗北・1979＝55歳：五味康祐とサンフランシスコ・リマに、篠山紀信とベニス旅行。『日本芸術院賞。』『夕暮れ族』が流行語。

・1981＝57歳：『日本芸術院会員。野間文芸賞選考委員。』

中曽根内閣・1982＝58歳：

・1984＝60歳：アレルギーが悪化し、病臥続く。白内障手術。

バブル始・1986＝62歳：*『人工水晶体』で講談社エッセー賞。第1回パチンコ文化賞。

竹下登内閣・1987＝63歳：

以後、闘病を続けるなか、

55年体制終・1993＝69歳：

次第に、病状悪化し、

・1996＝72歳：

金融破綻・1997＝73歳：肝臓癌で、没した。

座談の名手としても有名で、多くの対談集がある。

「この人どんな人」、インターネット、